

令和4年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

重点目標	課題	評価指標と活動計画	実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力をもった生徒を育成する。	(1) 指導方法の工夫・改善	評価指標	1 「授業力向上に、授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は90.0%(-2.7)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。	A	B	生徒の学習習慣について、評価がCになっているが生徒自身の評価が謙虚な回答になっているのではないかと？ 計画的な学習を進める力のことだと思いが、学校が課題を出すことは、そのことと方向性が違っているのではないかと。キャリアへの自覚が自律的な学習へ繋がっていくのではないかと。そのあたりも考慮する必要がある。	ICT機器を用いた個別最適な学びを引き続き実践していく。また、ICT機器の効果的な使用法についても工夫や改善を図る。 ○観点別評価実施初年度のため、手探りな部分もあったが、各教科それぞれに課題等も見えてきた。今年度の成果をもとに、評価の方法・基準についてさらに検討を続けていく。
			2 「指導方法や内容の精選、観点別学習状況評価の内容や教材の共有などについて、教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は97.5%(+2.4)であり、今年度も高いレベルで目標を達成できた。				
		活動計画	1 授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	授業研究週間内において106の授業が公開されており、全ての教職員が共同的問題解決学習を実践することができた。また、教員アンケートにおいて93.3%の教員が協働的問題解決型の授業の効果を実感している。				
			2 各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し、学習指導方法や評価の工夫や改善について検討する。	教科会を定期的に行うことはできなかったが、各教科で授業進度や評価基準の確認、考査問題の吟味を通して、指導法および評価方法の工夫や改善を行った。				
	(2) 計画性や目的意識を持った学習習慣や態度の育成	評価指標	1 「週末課題や確認テストに意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上 「定期考査に向けて計画的に学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	週末課題に関する肯定的評価77.4%、定期考査に関する評価71.2%であり、定期考査に関しての取り組みが各学年において低かった。	C	授業研究週間やICTの活用など教職員の授業改善に取り組む意欲は非常に高い。一方で、テストに向けて生徒の主体的で計画的な取組は不十分である。その意識付けと家庭学習習慣の定着については、毎年、状況が悪化し続けており早急な手立てが必要な重要課題である。	学習習慣のない生徒が増えており、定期考査でさえ十分な対策をしない生徒が増えていると感じる。1年生の早い時期に高校生活の長期的計画を考えさせる機会が必要。テストのための学習ではなく、自身の進路実現のための学習であると意識づけたい。	
			2 「実力テスト・校外模試に向けて自分の目標を設定できている」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価が65%と低い値である。特に2年生では中だるみ傾向か、1年生よりも少ない結果となった。				
		活動計画	1 シラバスや手帳、面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	各学年・教科での学習ガイダンスや、手帳を活用した学習スケジュール管理の指導、個別面談を実施して意識の高揚を図った。				
			2 進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに、具体的な目標を立てるよう指導する。	進学室前の掲示板は、毎日チェックし、試験情報を掲示した。				
	(3) 家庭学習の充実	評価指標	1 全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上。	全生徒の平均2.7時間。1年生で2.2時間、2年生で2.35時間、3年生で3.62時間だった。	C	2月のパネル発表では、出身中学校の生徒が楽しんで自信を持って発表できていた。一部の高度な発表だけではなく、普段の日常の疑問が活かされるような研究発表がとて良かった。素晴らしい取組をしていると思う。	家庭学習時間の減少とともに、校外模試の成績も下降している。成績下位層が増えてきていることもあるが、入学当初よりも学習時間が少なくなっている事から考えると、高校入学時の緊張感が抜けていくにつれて、進学までまだ日数があるといった安心感が中だるみとなっている。その中で授業展開の早さについても感じられる。1年生の1学期に進路を意識づける取り組みが必要である。	
			2 家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	1時間未満の生徒は3.3%だった。				
		活動計画	1 家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	調査を行うごとに各学年で生徒への呼びかけを行ってきた。学習意欲の高い生徒は習慣付いているが、意識の低い生徒との差が大きくなってきていると思われる。				
			2 HR・学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、授業内容の振り返りの重要性を理解させる。	長期休業前の集会や、HRでの呼びかけは行ってきたが、まだまだ伝わり切れていないのが現状である。				
	(4) 興味・関心を高める教育	評価指標	1 「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上 「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は92.5%(-7.5)であり、昨年度よりも数値が下がったが、今年度も高いレベルで目標を達成できた。また、生徒の肯定的評価は82.5%(+0.2)であり、目標値を達成できた。	A	教職員の授業改善等に加え、SSH等での多様な学びの場の提供により、生徒の評価は非常に高い。	特徴ある学校の取組として、ラグビー発祥の地の高校としてラグビー部の活性化を図ることは、中学校で進められている部活動の地域移行とも連携できるのではないかと。	
			2 「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は88.2%で目標を上回った。				
		活動計画	1 文献や書物に接する機会を増やし、話題に富んだ授業を行うなど、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	SW-ingや課題研究の活動を通して、生徒が文献や書物、公文書等に接する機会を積極的に設定した。それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。				
			2 魅力あるSSH事業を展開し、未知の事柄への興味(知的好奇心)を向上させる。	肯定的評価83.6%となり、様々なSSH事業が有機的につながったと考えられる。				
	(5) 家庭との連携	評価指標	1 PTA総会の保護者参加者数の割合50%以上、学年進路保護者会の参加者数の割合、各学年65%以上	今年度のPTA総会は書面開催としたが、コロナ禍以来、中止していた授業参観を実施することができた。(参観者:161名)学年進路保護者会は、全学年とも参加者が多く、目標を達成することができた。(参加者:1学年…86.7%,2学年…71.8%,3学年…71.6%)	B	PTA総会は書面開催となったものの、授業参観や進路保護者会は実施でき、多数の方々に参加を得て開催できた。ホームページの更新回数は計画通り実施できたが、更新頻度に偏りがあった。役割つホームページとの評価にはつながらなかった。	○コロナによる制限も緩和され始めたため、次年度こそ、通常形でPTA総会を実施したいと考えている。感染状況を注視しながら、安全で安心な行事を運営できるよう、綿密に計画していきたい。 ○保護者の学校や進路についての関心は高いため、有効な情報発信ができるよう、各学年とも、進路指導課と連携しながら進路保護者会を進めていきたい。 ○ホームページの更新について、行事予定を昨年度までのPDF一括アップロードからカレンダー機能を利用して1日1日入力する方法に改めた。昨年度の行事予定がPDFのみだと見にくいとの意見を受けたの改善策だったが、更新作業の負担が増えたことにより更新頻度が下がってしまった。最新の情報を見やすく発信できるよう計画していきたい。	
			2 「ホームページは、学校の活動状況などを理解するのに役立つ」保護者の肯定的評価70%以上	肯定的評価69.6%(前年から-7.3)となり目標は達成できなかった。更新頻度にばらつきがあり、最新の情報が掲載できていない時期があったためだと考えられる。				
		活動計画	1 コロナ禍であっても安全・安心な行事の企画・運営を行い、PTA総会や学年進路保護者会への積極的な参加を促す。また、進路課と連携しながら、各学年の保護者に応じた情報提供ができるよう保護者会の内容等を充実させる。	参観者の人数や時間の制限をかけたが、5月の授業参観が実施できたことは大変よかった。学校の取組や進路への関心は高く、各学年とも進路保護者会の参加が多かった。感染予防対策を徹底し、限られた時間の中で有意義な会にするため、伝達内容の精選や、配布資料の工夫などが各学年で効果的に行われた。				
			2 ホームページの更新を年間200回以上実施する。	ホームページの更新は年間200回以上実施できた。				

高い志を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・講演会・SSHの諸活動などを脇高手帳に記録し、進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上	脇高手帳の利用に関しては、生徒の評価は53.5%、教員の評価は82.4%とどちらも目標に達していない。ポートフォリオの作成指導は、担任だけでは難しかった。授業やHRでの指導は教員評価100%と取り組みに力を入れることができた。	B	A	生徒が自律的な学習の姿勢を持ったためにも、キャリア教育は重要である。地域の行政職を始めとして地域で働くことにも理解が広がる取組が期待される。	日々の生活についてはうまく脇高手帳を利用できていると思うが、探求活動や校外行事の記録としては、まだまだ不十分である。進路目標や、計画、ポートフォリオとしての記録を自ら積極的に進める。地域の行政職を始めとして地域で働くことにも理解が広がる取組が期待される。
			2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価70%以上	肯定的評価は70.8%で目標を上回った。					
		活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	小論文や探究活動など、進路に関する諸活動には多くの生徒が積極的に参加していた。					
			2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	各種コンテストやイベント、資格試験などの案内を生徒玄関前に一斉に掲示するスペースを設け、生徒が主体的に自分の進路を考えるきっかけとした。					
	(2)	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	保護者評価、90.6%。	A	A	SSHへの取組が志望分野探しに役立っているものの、様々な活動を通して得た気づきなど自らの成長を記録した「脇高手帳」を、自らの進路意識を高めるポートフォリオとして活用しきれていない恐れがある。	特色がある大学があるので、偏差値ではなく「自分」にあわせた進路選択ができていますか？ 家庭の希望そのままではなく個人の多様性に合わせた指導を心がけて欲しい。
			2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	保護者評価は89.6%と高かったが、生徒の評価は特に利用機会が少ない1・2年生での評価は70%程度と少なかった。					
		活動計画	1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	各学年とも、個別面談や三者面談は力を入れており、充実していた。					
			2	高大接続改革の情報を含め、必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』や進路保護者会の内容を充実させる。	各学年での進路保護者会は高い出席率で、多くの保護者から好評出会った。					
	(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	共通テストなし推薦の段階で、22名の合格者 3/22現在 108名合格(61.3%)	A	A	進学実績については学校全体で協力的に取り組んでおり成果が出ている。	SSH事業では探究活動をはじめとして、校内外で多くの活動経験・実績があるので入試にも生かせると思われる。
			2	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は生徒80.6%、保護者77.9%であった。					
			活動計画	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	昨年同様の合格者が出ている。1月末現在				
				2	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	顧問はよく配慮している。今後さらに生徒保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。				
	(4)	将来、社会において活躍しうる脇高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事には、積極的に・主体的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	肯定的評価は91.8%であった。	A	A	生徒会や脇高祭実行委員会が中心となって様々な創意工夫でコロナ禍を乗り越え、可能な限り様々な学校行事を実施できた。 朝のあいさつ運動は生徒主体にして、交通指導と併せて実施できた。	○昨年度の反省を生かし、生徒会や脇高祭実行委員等を中心に工夫して活動できた。次年度もこの経験をもとにさらにブラッシュアップさせたい。 ○身だしなみや挨拶に関しては、ある程度指導ができていたが、交通マナーや公共の場でのマナーについて各所から苦情が多く寄せられており課題となっている。
			2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は93.2%で目標を上回った。					
			活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を、生徒主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	昨年度の反省点をもとに制限はある中でも充実した活動ができたと考えられる。				
				2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	定期的に職員朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底を図った。生徒会協力の下、あいさつ運動が実行でき、生徒の意識が向上した。				
	(5)	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動など、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価65%以上	生徒の肯定的評価は68.8%であった。	A	A	探究活動等では地方自治体等との連携を深めて地域課題に取り組みすることで社会貢献に対する意識の高まりが窺える。	○高校生としての成長や進路実現に向けて、ボランティア活動等社会貢献の意識が高まっている。特にJRC部や生徒会が中心となり、ウクライナ募金等に取り組むなど、生徒全体はもろろん地域の方々にも御協力いただいたような活動も実施できた。今後ますます全校生徒が参加への意欲をもてるような広報や啓発を行っていかねばならない。
			2	「社会の課題解決に関する探究活動に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価は80.6%で目標を上回った。					
			活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各クラスでの掲示や集会での生徒会からの報告等啓発に努めた。JRC部も昨年引き続き、積極的に全校生徒が参加できる取り組みを考え実施した。				
				2	探究活動や成果の報告会などを通して生徒間の経験や知見を共有させ、社会への関心を高める。	地元企業や地方自治体など多様な主体と連携した課題研究に取り組み、全生徒が参加する成果発表会を実施した。				
(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「GTECや英検の受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は66.8%(+2.9)と目標値を上回り、英語学部検定試験への積極的な姿勢が見られた。	A	A	GTECを基本にほとんどの生徒が外部試験を受検しており、リスニングテストやスピーキングテストの実施と合わせて、英語4技能をバランス良く育成することができた。	○新しい指導要領のもと、よりコミュニケーションを意識した取り組みが進んだ。生徒が積極的に英語で表現する機会を増やすことによって、生徒が自らの課題に気づき、向上心やモチベーションを高めることができた。この取り組みを次年度も続けていきたい。 ○パフォーマンステストは実施・評価ともにかかりの時間と労力が必要である。できる限り効率化をはかっていくことが課題である。 ○学校外の活動にも積極的に参加し、外国人や海外の文化に直接触れる機会を増やしていくことで、都会との格差を補っていく。	
		2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の肯定的評価が55%以上	生徒の肯定的評価は56.6%(-2.4%)で目標値を上回った。						
		活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め、GTECや英検の受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにリスニングやスピーキングテストを取り入れる。	GTECは1・2年生の全員、英検については2級146名、準2級は77名が受験した。プレゼンテーションやディベート、インタビューテストなど、様々な形態のパフォーマンステストを充実させることにより、コミュニケーション力を伸ばすための取り組みができた。またALTを活用することによって、活動の内容を深め効率を高めることができた。					
			2	書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	教科書の単元に関連する内容や、プレゼンテーション学習において、インターネット等を活用して必要な情報を取り入れ、他者に伝えるよう努力できた。					

3	(1)	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は89.3% (+2.0) と目標数値を上回ることができた。	A	A	(所見) 評価指標について、14項目中達成できたものが9項目、部分的に達成できたものが4項目、達成できなかったものは1項目であった。	○環境では学校内外でゴミの分別や環境整備に今後とも取り組んでいきたい。また、学期に一回の学校近くの大谷川周辺の清掃活動も継続していきたい。 ○防災については、引き続き避難訓練やJアラートでの訓練を通して生徒に意識付けをしていき自ら行動できるようになってもらいたい。また、高校生防災士の受講生を確保して生徒たちが防災に対しての知識を得ていざという時にリーダーとなって行動できるようにならしてもらいたい。						
				2	「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は80.2% (-0.5) と目標数値を上回ることができた。										
			活動計画	1	快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できている。教室に電子黒板等精密機器が設置されているので環境整備に努めている。また、各学年で学校周辺の清掃活動を行っている。										
				2	高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	今年度は、3月の避難訓練で、本校が避難所となった場合を想定してお湯を確保して温かい食べ物を提供できる訓練を行う予定である。										
			(2)	集団や社会の一員として協力	評価指標	1					「ホームルーム活動や部活動を通して、自分自身が成長できていると感じる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は85.6%であった。	A	A	実施形態を工夫しながら避難訓練を実施し、防災意識の向上に努めており、成果がでている。	○協働的な雰囲気の中でホームルーム活動や部活動が行われている。集団への帰属意識を高め、さらにその中で自分の果たす役割を常に考えさせ、生徒自身を成長させる活動を進めていきたい。
						2					「授業や小論文・講演会などを通じ、社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は80.2%(-0.9)となり、目標を達成できた。				
	活動計画	1			ホームルーム活動や部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	コロナ禍で制限のある中でも、工夫して取り組ませることが生徒を成長させるきっかけ作りになったと考えられる。										
		2			主権者教育年間計画表に従い、主権者意識を高めるための授業、ホームルーム活動、総合的な学習の時間、学校行事を実施する。	教科学習や探究活動において協働性を育んだ他、生徒会役員選挙を活用した模擬投票を実施したり、3年生の年金講座を通して、社会の一員としての自覚や主権者意識を高める取り組みを行った。										
	(3)	基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進			評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価90%以上 交通事故等を昨年度より減少させる。	生徒の肯定的評価は93.4%で目標値を上回った。交通事故は昨年度と比較して増加した。	B	B	交通安全・交通マナーに対する生徒の意識は高いが、交通事故の発生件数が増加している。 携帯電話やスマートフォンについては、利用方法についての意識は高いが、利用時間に対する生徒の自覚を促すとともに、保護者の理解と協力を求めていく必要がある。	○朝のHRや集会などを通して交通安全や交通マナーについて周知を徹底したが、自転車の通行マナーや公共の場におけるマナーに関して苦情が多く寄せられており課題がある。 ○携帯電話やスマートフォンをルールやマナーを意識して使用しているという生徒の割合が高い。しかし、依然としてSNSでのトラブルなどが発生しており、使用に関しては注意喚起を行っていく必要がある。利用時間を意識している生徒の割合が下がっていたので、トラブルの元にならないように、保護者への協力を呼びかけ、啓発に努めたい。				
						2	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上 「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上	利用時間に対して生徒の肯定的評価は66.0%(-3.6)、保護者の肯定的評価は54.2%(-1.7)で目標値を達成できなかった。マナーに関しては生徒の肯定的評価は89.9%(-0.9)、保護者に関しては82.3%(-0.7)で目標値を上回った。								
			活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き、車体検査を行う。また、登校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	定期的に職員朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底を図った。バイクの安全運転実技講習会や車体検査を実施し、交通安全教育を徹底した。しかし、交通事故件数は昨年度5件から11件と増加した。										
				2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォンの利用時間やルール・マナーを意識して使用させる。	定期的に朝礼で全職員に呼びかけ、朝のHRで生徒への周知徹底を図った。携帯電話やスマートフォンのルール・マナーに関しては家庭の協力もあり、90%近くの生徒が十分意識して使用している。										
			(4)	保健指導の充実	評価指標	1	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして、自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価60%以上 「掲示物などを通じて、時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができています」教職員の肯定的評価90%以上	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして、自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価73.1% 「掲示物などを通じて、時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができています」教職員の肯定的評価95.0%					A	A	○感染症法改正やマスク着用が個人判断になる等、感染症対策が変わっていくため、生徒へ正しい判断材料を提示していく必要がある。次年度は修了書が出る普通救命講習会を企画する予定である。	
						2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員の肯定的評価97.5%								
	活動計画	1			時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	保健だよりは基本的に月に1回発行し、教室掲示で生徒がいつでも読めるようにしている。										
		2			教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	教職員や部活動生徒対象の救急法講習会を実施し、予防も含めた校内救急体制を確認することができた。										
	(5)	教育相談及び特別支援教育の充実			評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価90%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者の肯定的評価85%以上 「自己理解調査や職員研修を活かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」「悩みや不安などの困り感を抱えた生徒に対して、組織として迅速かつ臨機応変な対応ができるように努めた」教職員の肯定的評価90%以上	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価90.9% 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者の肯定的評価89.2% 「自己理解調査や職員研修を生かし、学級や部活動などで生徒の居場所づくりに努めることができた」教員の肯定的評価は95.0%であった。生徒、保護者、教員すべての評価において目標を達成することができた。	A	A	○生徒や保護者の肯定的評価を過信することなく、担任・学年・部活動顧問等で連携しながら生徒の悩みに迅速に対応していく。 ○スクールカウンセリングを希望する生徒や保護者は多いが、時間に限りがあり希望者全員の要望に応えられないことがある。配置時間を増やしてもらえよう要望していきたい。 ○子どもと家族の関係が希薄で、悩みや不安の原因が分かるまでに時間を要したり、家庭の協力が得られにくかったりするケースが増えている。担任や学年団だけでなく、関係機関とも連携しながら早期に対応していくことが課題である。					
						2	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備、授業づくりの工夫ができた」教職員の肯定的評価90%以上	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりの工夫ができた」教職員の肯定的評価97.5%で目標を達成することができた。								
			活動計画	1	悩みや不安など、様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	人権教育課と連携し、特別支援教育についての職員研修を実施した。配慮を要する生徒が増えてくるなか、臨床心理士の先生から生徒の抱える悩みについて具体的に学ぶことができた。										
				2	担任をはじめ教科担任や部活動顧問、関係機関とも連携し、生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し、組織として、迅速かつ臨機応変な対応に努める。	不登校や悩みのある生徒について、保護者と連携して、徳島県精神保健福祉センターの思春期外来やスクールカウンセラーの利用をすすめるなど、関係機関とも連携できた。										
			(6)	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価85%以上 「子どもが学校で人権問題について学んだことを、家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価45%以上	生徒の肯定的評価は87.3%で、目標を達成することができた。保護者の肯定的評価については43.8%で目標を達成することができなかった。				A	A	○生徒が人権問題についての学びを、日々の生活に反映させられるよう、生徒の身近な内容を取り上げたり、家庭との連携をより一層図る等の工夫をしたい。 ○「人権の日だから語る会」参加者数を増加させるために、広報活動に努め、気軽に参加できる雰囲気作りに励みたい。家庭への広報活動についてもホームページの内容を充実させるなど工夫したい。 ○人権学習ホームルーム活動については、さらに多くの教員が指導に関わるように工夫していく。		
						2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上 「すべての教育活動の中で、人権に配慮した指導ができています」教職員の肯定的評価95%以上	生徒の肯定的評価は91.4%で目標を達成することができた。教職員の肯定的評価は97.5%で高い評価となった。								
	活動計画	1			人権問題をより身近なものとして捉え、実践的態度につなげるために、人権委員が主体となり「協高入権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また、その日のテーマを家庭でも共有し、広がりある人権教育に結びつける。	「協高入権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が1～2クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで、主体的に資料作成に取り組む姿勢が見られた。「人権の日だから語る会」への人権委員・人権同好会「虹」の生徒以外の参加者は少なかった。										
		2			生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また、多くの教員が指導に関わるように工夫する。これらの活動を柱に、すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。	人権ホームルーム活動の指導案や資料の準備に関して、各学年の担当者を中心に十分に検討して進めることができた。全15クラスで副担任の先生がホームルーム活動を行う機会を持つなど、多くの教員が指導に関わるすることができた。										

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

		(7)	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	評価指標	1 「修学旅行・文化祭などの学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は88.3%であった。	B	3年生の修学旅行は日帰り遠足に変更したが、2年生の修学旅行、文化祭等は様々な工夫をしながら実施できた。ミライ文化祭も実施予定であり、芸術や文化に触れる機会を提供できた。	○制限が多い状況でも、文化祭等生徒は工夫して実施している。そのような生徒自身の取り組みが、肯定的評価に繋がったと考えられる。今後もどんな状況下においても生徒自身に考えさせ工夫させる取り組みを継続していきたい。 ○図書の貸し出し数は増加したが、入館者は減少した。タブレット導入などが導入され、授業での利用が減少したことが原因だと思われる。多くの生徒が図書館を利用するような仕掛け等の工夫が必要である。
			活動計画	1 修学旅行・文化祭などの学校行事の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	制限の多い中、生徒は文化祭や文化部活動等、芸術や文化に触れる機会を積極的に持とうとしていた。昨年度の修学旅行の代替遠足、今年度修学旅行は日程等変更して実施した。				
			評価指標	2 「普段から読書に親しんだり、新聞を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価60%以上 図書の新着数・入館者数の増加	「普段から読書に親しんだり、新聞を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価は54.1%で、目標には届かなかったが、図書の新着数は増加した。				
			活動計画	2 読書推進週間を設け、図書館だよりの充実や読書の推進を図る。	クラス読書会を実施したり、図書館だよりで図書委員のおすすめ本や先生方のおすすめ本を紹介するなどして、読書推進を図った。				
4	働き方改革に取り組み、教職員のワークライフバランスを推進する。	(1)	業務改善と意識改革	評価指標	1 「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価80%以上。	教員の肯定的評価72.5%で昨年度から微増であるが、目標は達成できなかった。	C	先生方には体を壊さないように気をつけていただきたい。 コロナ禍に加え、来年度に向けて様々な教育改革が進む中、多忙感を払拭することができなかった。	○不要な業務を洗い出し、業務縮減に努める。 ○各分掌間で連携して行事の精選や見直しを検討するとともに、各分掌内でも、課員個々が抱えている業務量を勘案して業務分担を見直すなど、業務の平準化に努める。 ○週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。
			活動計画	1 時間外勤務時間が、年平均で月45時間以内。	1月末現在で32.75hで目標は達成できた。ただし、48名中14名が45を超えている。				
			評価指標	2 日常業務の効率化を図るとともに、会議の精選や会議時間の短縮を推進する。	中学校に対する説明会の廃止や精勤賞のカウント方法の変更、年休届の紙媒体廃止など気がついたところは積極的に業務縮減に努めたが、根本的な改善にはならぬ多忙感を払拭するには至らなかった。				
			活動計画	2 勤務時間を意識した働き方を推進するとともに、週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。	週末の部活動について時間短縮するための取組ができなかった				